

遊戯王

なっち様

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

遊戯王を八幡とかやはり俺の青春ラブコメはまちがっているのキャラとする話。1話は紹介みたいなもんだから決闘描写なし

2話から決闘だらけ

目次

やはり俺のゴリラハンドは大正義

やはり俺のゴリラハンドは大正義

俺には目が腐った友達がいる、いや性根もかな？

そいつは捨くれてて根暗でぼつちでぶつちやけ、いいところが少ない

じゃ、なんでそんなのと友達かって？それは

「八幡、そいつの召喚成功時に奈落な」

「ふざけんなよ、レインボーネオスが泣くぞ」

今、八幡と対戦してるカードゲーム「遊戯王」のおかげかな

これは世界一売れてるカードゲームで今、中高生で大ブーム…だといいなあ。まあ、とにかくこれで八幡と対戦してる内に仲良くなつてたんだよ。

デュエルをすればみんな友達だもんね、おかしくないね

「で、八幡、レインボーネオスが破壊された訳だか次の手は？」

「ある訳ねえだろ、もう手札1枚もねえよ、負け負け」

「じゃあ、俺の勝ちだな、面白いデッキだったけどなレインボーネオス、耐性持ちじゃないのが辛いなあ、やっぱ」

「GX産の中では頭1つ抜けて強いけどな」

「生まれる時代を間違えたな」

「9期に生まれてたら破壊耐性どころか対象にならないまである」

「そんなくらいしていいよ、ネオスは素材両方とも縛ってたんだから」

「でも、それだけやっててもライトニングで死ぬんだよなあ」

「ライトニングはしようがないっしょ、あいついないと高打点突破できかないし」

「なんでもかんでもランク4で突破できるようにすんのがおかしいんだよ、万能なのは俺だけでいい」

「ハハ、ワロスワロス、プトレ守備に2600で殴り行って相打ちですとかドヤ顔でする奴がなんか言ってるんだけど」

「いや、アレはプレミじゃないから相手が勘違いしてプレアになるのワンチャン狙ってただけだから（震え声）」

「ならなかったけどな!!」

「あいつは相当できる奴だった、目がそう語ってた確固とした自分を
持つてる目だった」

「目を丸くしてたんですが、それは・・・」

「もう・・・許せ・・・」

今の会話についてこれないならこの物語見ててもつままないから
バックしたほうがいいよ。

まあ、この会話で分かるかもしれないけど俺と八幡はこの遊戯王に
ドツプリはまつてる。なんか頭おかしいんじゃないかってくらいは
まつてる。でも後悔はない!だってそれが愛だろう?

「八幡、そのデツキ弱いから崩したほうがいいよ」

はい、愛のない発言しました。ごめんなさい

「おま、ファンデツキに言う言葉かよそれ、いいんだよ別に勝つだけ
が目的じゃないだから」

なんて言ってるけどコイツめっちゃ悔しそうにしています、いつも負
けると少し不機嫌になるんだよこいつ。

「お前つてき、ホント負けず嫌いだよな」

「負けるのが好きな奴なんていねえよ、いてもそりやマゾだ、俺はマゾ
じゃない」

言いたい事はわかるな?とジロつと見てくる

そういうところが負けず嫌いなんだよ、おまえ

「ハイハイ、分かったよ要するにお前はSってことだろ?」

「ダメだ、コイツ早くなんとかしないと」

「もう手遅れさ、なんでもっと早く助けてくれなかったんだよ」

「頑張ったんだけど、チカラ及ばずなんの結果も残せませんでしたあ」

「許して下さいってかあ!?!許してやるよお!」

「このノリいつまで続くの?」

続けたかったらご自由に?

「ヤだよ、オレお遊戯したいもん」

「お遊戯しても俺の勝ちだよ?」

「やって見なきやわからねえだろ?」

「じゃあ、やってやろうじゃねえか」

「いくぞー!」

「決闘」

あれっ?これで俺勝ったらまた最初の下りから?

もしかしてこれって

無限ループ!!?カッーン